

マタイの福音書 第6章 29節

「わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。」

垣根の先端にトンボが羽を休めている。長い秋雨が中断し、久しぶりに乾いた風がそよぐ午後のひと時である。時は着実に進み、季節が自然の色合いを変化させ始めている。その前触れとして飛んで来た垣根のトンボである。時のしるしを命あるもので知る。生きているから時期を捕らえ、それにふさわしい命の振る舞いを見せてくれる。

わたしはあなたがたに言う、と呼び掛けてくださった主イエス。私たちが見落としている命の美にこころを向けさせる。普段何気なく通り過ぎ、見過ごしている命の美があるでしょう。それにこころを留めるなら、人手ではおよばない美に気付くはずだ。その天からの美を見なさい、と主イエスはこころを導いてくださる。すると、世に溢れている栄華とは比較できないものに触れる。世の権力で築き上げた栄華では太刀打ちできないものに出会う。

世の誰もが造り出せない美が、天より与えられている。あなたがたにお語りになり生きられる愛といのちが込められた美である。あなたがたに注ぐ愛の美がある。ここにこころの目を向けよ。

2022年10月15日